

7 学勢調査 2022 追加調査速報

学勢調査 2022 の実施後に、「東京医科歯科大学との統合」、「学士課程入学試験における女子枠の導入」について行った学勢調査 2022 追加調査の結果については、2023 年 6 月をめどに結果を公開し、大学に報告する予定です。

ここでは追加調査結果の概略について報告します。

7.1 調査目的

学勢調査 2022 実施以降、本学では大きな決定が 2 つありました。「東京医科歯科大学との統合」と「学士課程入試における女子枠の導入」です。この 2 点は学勢調査 2022 のアンケート実施後に発表されたものです。学生生活への影響がとても大きいと考えられることから、学勢調査 2022 の追加調査として現在の学生への意識調査を緊急実施することにしました。

7.2 調査主体

学生支援センター未来人材育成部門に置かれている学勢調査 2022WG が、学生スタッフを募集し、アンケート調査を実施しました。

7.3 調査時期・調査対象・調査事項

本追加調査は 2022 年 12 月 27 日から 2023 年 1 月 27 日の間に実施しました。調査対象は本学に在籍する全学生です。調査事項については、「8: 調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご覧ください。

7.4 調査方法・分析方法

本追加調査は、教務 Web システムのアンケート機能を利用して行われました。本学学生のみが回答できるものの、個人は特定できないようにアンケートを集計するシステムになっています。

調査項目は設問検討会議を通じて学生スタッフが決定しました。回答データの解析についても、学生スタッフがデータの分析、議論を行い、その結果についてまとめます。

7.5 回答者の属性

表 7-5.1 所属課程、留学生、性別、24 年度以降在学予定見込みについての各回答者人数

	所属課程		留学生		性別		24 年度以降 在学予定見込み	
	学士	837	留学生	350	男	1,263	はい	896
	修士	428			女	299	進学を希望 している	218
	博士後期	294			回答しない	47	いいえ	454
	その他	64	非選択	1273	非選択	14	非選択	55
総計		1,623		1,623		1,623		1,623

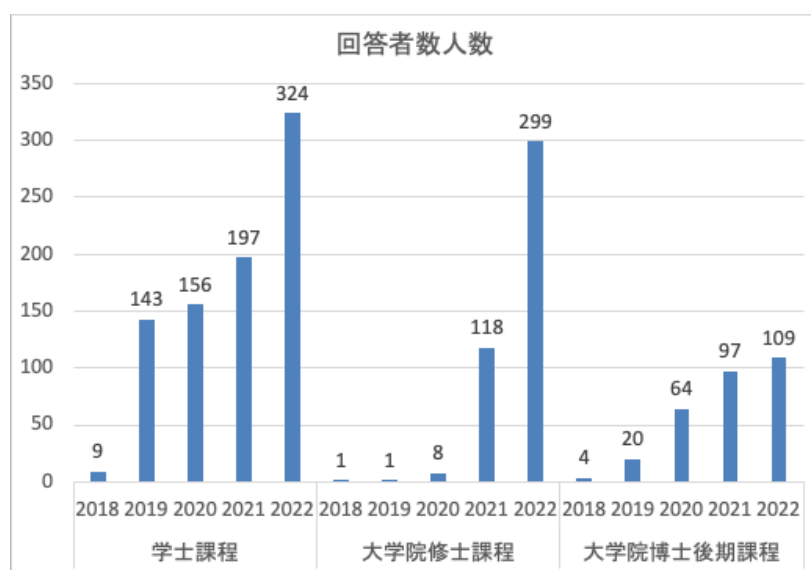


図 7-5.1 学士/修士/博士のそれぞれの入学年度ごとの回答者数の人数

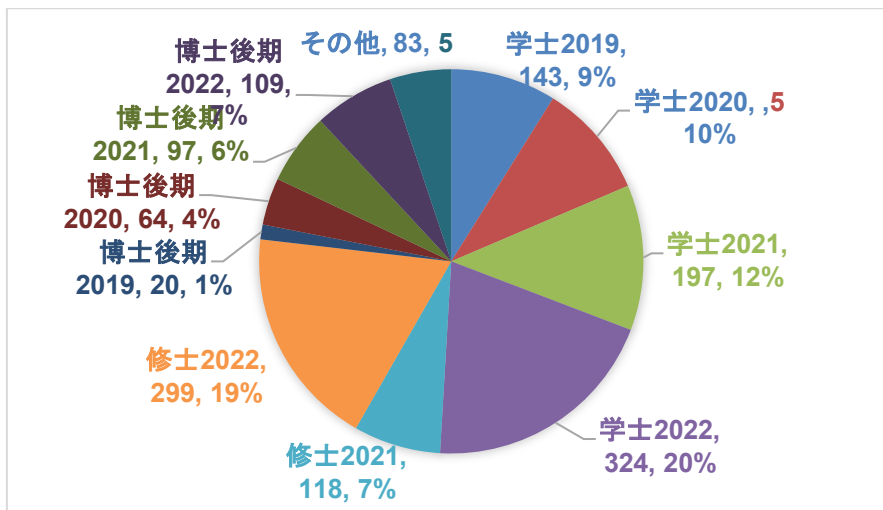


図 7-5.2 学士/修士/博士のそれぞれの入学年度ごとの回答者数の割合

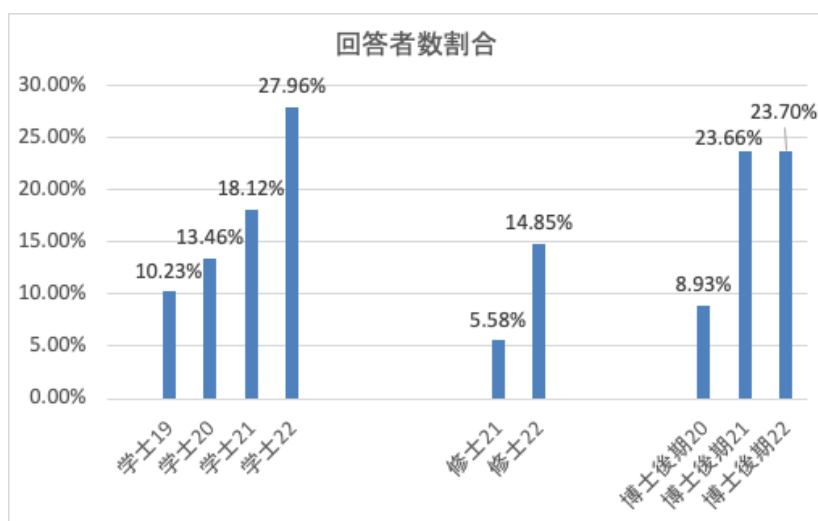


図 7-5.3 学士/修士/博士のそれぞれの入学年度の人数に対する回答者数の割合 (各学年の所属人数は本学公表データに基づく¹)

図 7-5.1 と大学の統計データをもとに、図 7-5.2,3 に示した入学年度ごとの回答者数の割合を算出しました。22 年度入学の学士課程、すなわち学士 1 年の回答者数割合は 27.96%であり、3-4 人に 1 人が回答しており、統合と女子枠に対する関心が高いことが推測されます。学士、修士、博士どの課程においても、学年を追うごとに回答者数が減ります。博士後期課程への進学割合が少ないため、24 年度以降の変化の影響を受けない修士 2 年(修士 21)の回答者数割合はわずか 5.58%と、非常に関心が低いことがわかりました。

表 7-5.1 における回答者の人数比は、留学生 14.8%、性別においては男性 8823 人、女性 1845 人、回答しない 47 人であり、「男性:女性=4.78:1」の比率は大学全体の人数比(留学生: 1810/10648 人=17.0%)、男女比(男:女=4.22:1)と大きな差がなかったため、性別と留学生の比率という観点では回答者に偏りはほとんどないと見られます。ただし、大学全体における所属人数の情報は、性別の区分が男性/女性の 2 つである点、注意が必要です。

24 年度とは、統合と女子枠の導入が開始される年度です。24 年度以降在籍予定見込みの学生か否かで回答結果に影響があると予測しており、こちらの区分についても、今後クロス集計を行う予定です。

¹ 東工大 HP 東工大について 統計データ <https://www.titech.ac.jp/public-relations/about/disclosure/facts> (最終閲覧: 2023 年 3 月 28 日)

7.6 東京医科歯科大学との統合についての調査結果概観

数値データについて

東京医科歯科大学との統合について、選択式の設問を 13 問実施しました。ここでは 2 つの設問をピックアップして紹介いたします。

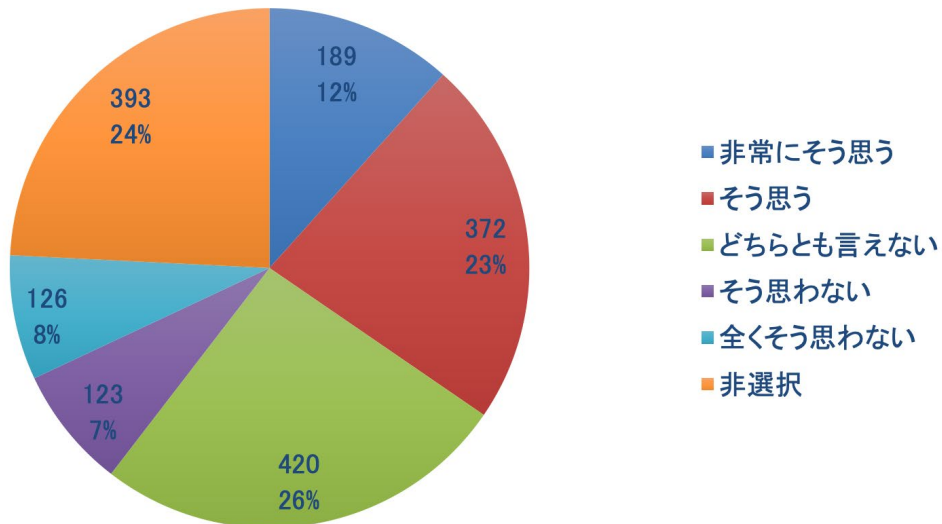


図 7-6.1 統合を楽しみにしていますか

1 つは「あなたは統合を楽しみにしていますか」という設問です。「非常にそう思う」から「全くそう思わない」まで 5 段階で統合に対する素朴な期待感を問う設問で、約 1600 件の回答をいただきました(図 7-6.1)。「非常にそう思う」「そう思う」の合計が 35%、「そう思わない」「全くそう思わない」の合計が 15%という結果となっており、楽しみにしていないという意見が比較的少ないことが分かります。一方で「どちらともいえない」および「非選択」の合計が 50%を占めており、およそ半数の学生が統合に対する期待感について判断を保留していることも伺えます。

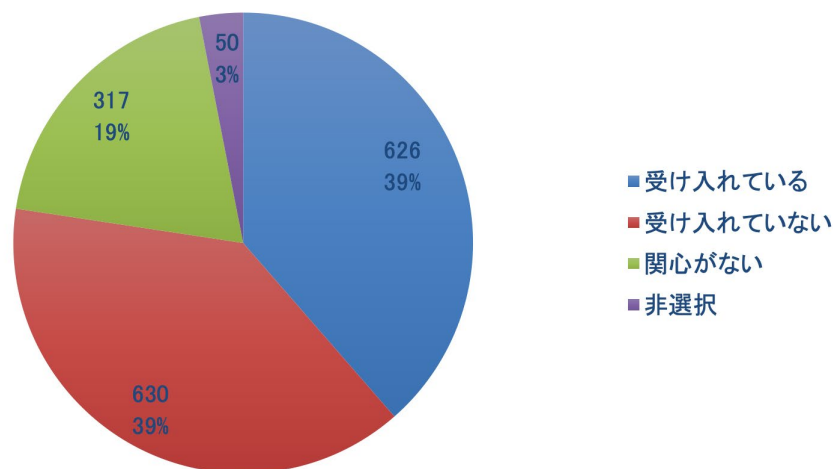


図 7-6.2 大学名が変更されることを受け入れていますか

2つ目は、「あなたは東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れていますか」という設問で、「受け入れている」「受け入っていない」「関心がない」の三択とし、こちらも約 1600 件の回答をいただきました(図 7-6.2)。回答は大きく2つに割れる結果となり、受け入れている、受け入っていないのどちらも 39%となっています。約 2 割の学生は名称に対してあまり関心がないものの、名称の変更については学生間で賛否両論がはっきりと分かれていることが伺えます。なお、この調査の実施期間中の 1 月 19 日に新名称の発表があったため、名称発表前後の回答が混在しています。

自由記述について

No.26 「統合について、意見があれば自由に記入してください。」という記述型の質問については、統合後の大学の名称について特に多くの意見が挙げられました。新名称の公表前の回答からは、就職活動等への影響を憂慮して、現在両校の持つネームバリューを保てるような名称にしてほしいという意見、新名称公表後の回答からは、新名称について賛否両方の立場から意見が寄せられました。統合全体についても、

- 面白い取り組みだと思うので期待している
- 医工連携を深め、活発な研究が行われることを望む

といった賛成意見が挙がった一方、

- 制度面など統合にかかるコストが大きい割に、学生への恩恵があまり期待できない
- 両校のネームバリューがなくなるだけでメリットがない

という反対意見もありました。また

- 統合の具体的なメリットもデメリットも分からないため賛成でも反対でもない
- 名称変更以外特に興味がない

という中立意見も多く挙げられました。

7.7 学士課程入試における女子枠の導入についての調査結果概略

数値データについて

女子枠導入に対する設問として

- No.27: 女子学生の比率が増えることについてどう思いますか
- No.28: 女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか
- No.29: 女子枠の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか
- No.30: 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか

の 4 つを質問しました。結果は以下の図 7-7.1~4 のようになっています。

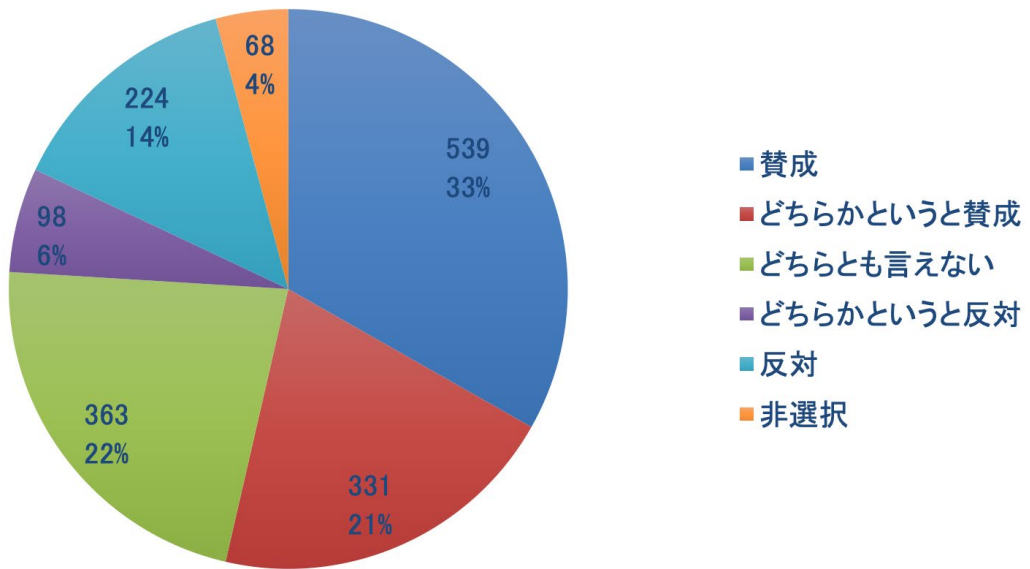


図 7-7.1 女子学生の比率が増えることについてどう思いますか

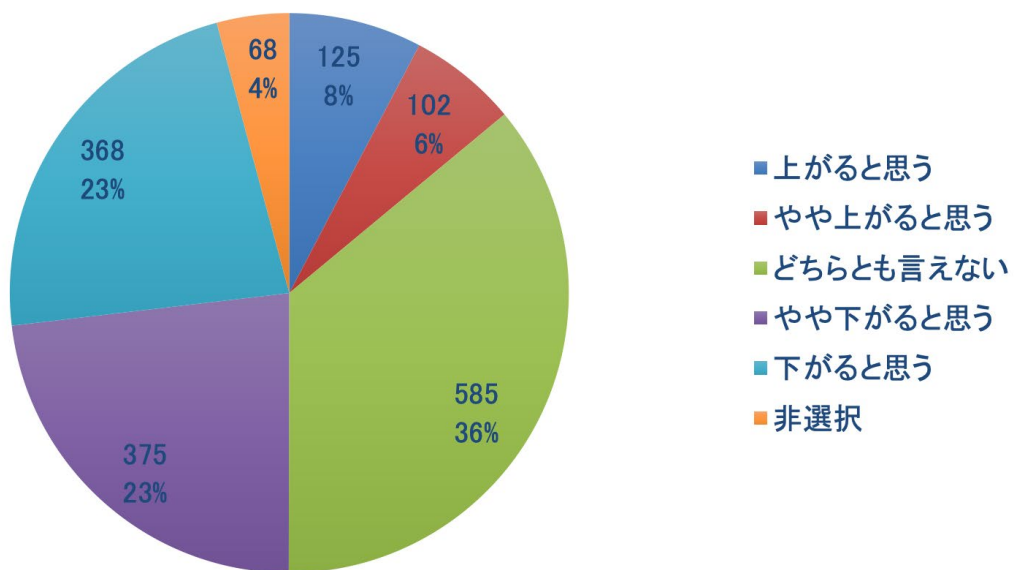


図 7-7.2 女子枠の導入によって、学生の学力はどうかと思いますか

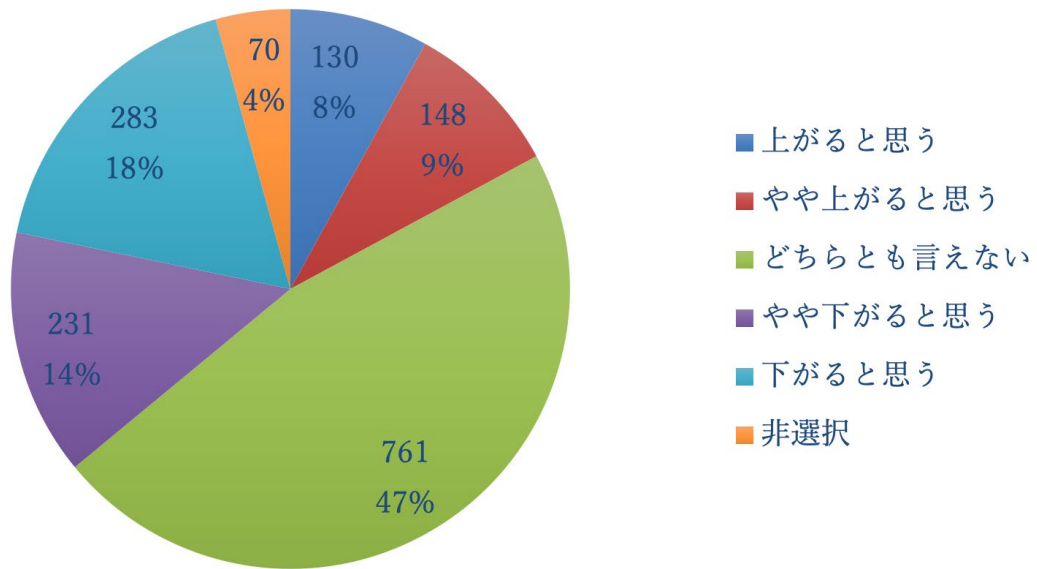


図 7-7.3 女子卒の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか

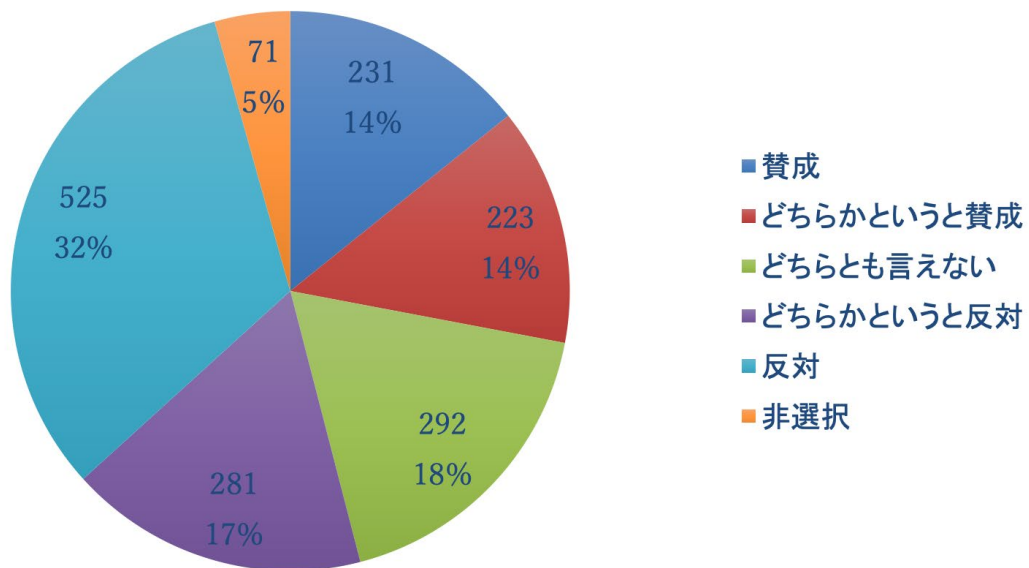


図 7-7.4 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子卒を導入するという取り組み全体についてどう思いますか

女子学生の比率が増えることに対しては肯定的な意見が多い一方で、女子卒導入に対しては否定的な意見が多く、女子学生比率を上げる取り組みとして女子卒導入は学生間であまり受け入れられていないことがわかりました。また、女子卒導入による学生の学力、研究力に対してはどちらとも言えないと回答した人が多い結果となりました。どちらとも言えないと回答した人が多い理由として、設問内容が予測の難しいものであったのではないかと考えられます。

自由記述について

No.32「女子枠の導入について、意見があれば自由に記入してください。」という記述型の質問については、全体的に女子枠導入に反対する意見が多く寄せられました。理由としては、

- 男子学生への性差別になっていると考えるから
- 女子枠で入学した女子学生に対する蔑視が学内外から生じることへの対策が足りていないと考えるから
- 性的少数者(LGBTQ)への対応が明確に示されていないから

などが挙げられました。一方で、

- 多様性の観点から女子枠導入に賛成する
- 女子枠の導入による良い効果を期待する

といった意見も挙げられました。

7.8 追加調査全体を通じての結果

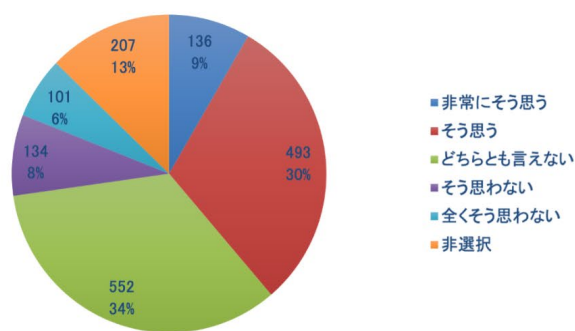


図 7-8.1 (左図)統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか

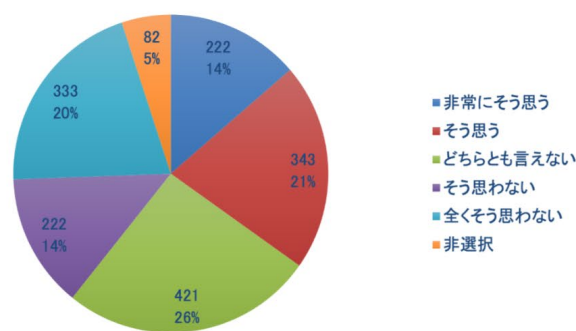


図 7-8.2 (右図)女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか

統合と女子枠の導入についての設問に共通して設けた唯一の選択式設問は、No.25,31の「D&Iが促進されると思いますか」という質問でした。両者とも「どちらともいえない」という回答が最も多くなっており、判断しかねている層が多数でした(図 7-8.1,2)。両者を比較してみると、「非常にそう思う」もしくは「全くそう思わない」と改革について強く肯定若しくは否定している学生は、統合よりも女子枠の導入についての設問で多くなっていました。D&Iはどちらの改革においても主軸に置かれている概念ですが、統合と女子枠の導入の間にはD&Iについて学生の意識の違いが存在していると考えられます。

表 7-8.1 自由記述設問の回答数

No.21: 現行の東工大の制度のうち、統合後も変えないで欲しい制度は何かありますか、またそれはなぜですか	No.22: 現行の東工大の制度のうち、統合を機に変えて欲しいものは何かありますか、またどう変わって欲しいですか	No.23: 統合後、異なる所属の学生間の交流を推進するために継続または新設してほしい制度はありますか	No.24: 統合後、情報基盤システムに関して何か要望はありますか	No.26: 統合について、意見があれば自由に記入してください	No.32: 女子卒の導入について、意見があれば自由に記入してください
521	527	350	395	265	646

今回の調査で独立した自由記述の設問は、No.21～24、26、32の6問でした。統合についての設問では、統合後に変えてほしいもしくは変えないでほしい制度についての回答が共に500件を超えています(表7-8.1)。

また、女子卒の導入について自由に意見を求めた設問では、646件もの回答がありました(表7-8.1)。統合及び女子卒の導入における学生の関心の高さが現れた調査結果になったといえます。